

数千万年かけて地球が作った資源を
100年で使い切ろうとしています

投入されたエネルギーの60パーセントが
家まで届きません。

数千万年かけて地球が作った資源を 100年で使い切ろうとしています

石油は、2億3千万年前から数千年前に海中でプランクトンの死骸などが堆積し、地下の高温や圧力の影響を受け、長い年月を経て、変化してできたものです。

石油火力発電、ガソリン、プラスチック製造など、人類は、20世紀以降、石油を使用することで文明を発展させ、経済を成長させてきました。

しかし石油の埋蔵量は、すでに底が見えてきています。このままではあと40年でなくなるともいわれています。

参考:

地球市民村事務局編『私にできることは、なんだろう』(アスコム、2006年)99頁・FoEジャパン

立教大学ESD研究センターCSRチーム ファクトカード_v1.0

投入されたエネルギーの60パーセントが 家まで届きません。

投入した石油や石炭のエネルギーを100とするとそのうちの60以上は、発電所から熱エネルギーとなり海や大気に出て行きます。

それは温暖化や大気汚染の原因になります。

さらに電気が電線を伝わる間にもエネルギーは失われます。

便利で安い生活の裏にあるのは、乱暴なエネルギー利用です。

参考:

地球市民村事務局編『私にできることは、なんだろう』(アスコム、2006年)74頁・自然エネルギー推進市民フォーラム

立教大学ESD研究センターCSRチーム ファクトカード_v1.0

エネルギーは、上位10ヶ国で
全体の65%を消費しています。

再生不能なエネルギーが
全体の8割を占めています。

エネルギーは、上位10ヶ国で 全体の65%を消費しています。

残りの35%を180以上の国で分け合っています。10ヶ国とは、アメリカ、中国、ロシア、日本、ドイツ、インド、カナダ、フランス、イギリス、韓国です。これらの国は同時に二酸化炭素も多く排出しています。

参考：

阿部治・野田研一監修『持続可能な未来がわかる絵本』（山と溪谷社、2007年）7頁

立教大学ESD研究センター-CSRチーム ファクトカード_v1.0

再生不能なエネルギーが 全体の8割を占めています。

世界の消費エネルギーの8割が、原子力発電を含む枯渇性エネルギーです。このまま使い続けると、将来かならずエネルギー資源は足りなくなります。

参考：

阿部治・野田研一監修『持続可能な未来がわかる絵本』（山と溪谷社、2007年）7頁

立教大学ESD研究センター-CSRチーム ファクトカード_v1.0

13分に1種、生き物が絶滅しています。

世界の34地域に、全世界の植物の半数が
生存しています。

13分に1種、生き物が絶滅しています。

地球上の生物種の数、数百万とも億ともいわれます。
人間によって分類され、名前がつけられているものはそのうち、約150万種に過ぎません。
種の絶滅は、複雑に絡み合う生態系のバランスを崩し、やがて人間の生存をも脅かすでしょう。
現在では、1日に110種、1年に4万種の生き物が絶滅しているという説もあります。

参考：
地球市民村事務局編『私にできることは、なんだらう』（アスコム、2006年）177頁・生態教育センター

立教大学ESD研究センターCSRチーム ファクトカード_v1.0

世界の34地域に、全世界の植物の半数が生存しています。

生物多様性を守るうえで大切な地域を生物多様性ホットスポットといいます。1,500種以上の固有植物種があり、その70%以上が本来の生育地をすでに失っていて、保全の必要性が高い地域のことです。

現在世界中にホットスポットは34地域。マダガスカルやフィリピン諸島、チリ中部などです。地球上の陸地面積のわずか2.3%を占めるに過ぎないこの地域に、全世界の50%の維管束植物種と42%の陸上脊椎動物種が生存しています。日本列島もホットスポットのひとつです。

参考：EICネット 環境用語集

立教大学ESD研究センターCSRチーム ファクトカード_v1.0

このままでは100年後に
熱帯雨林はなくなります。

すでに地球の陸地の1/4は砂漠です。

このままでは100年後に熱帯雨林はなくなります。

この1秒で、およそサッカーグラウンド1つ分の熱帯雨林が伐採されています。このスピードでは、いずれ地球上の半分の生きものが絶滅します。保水力がなくなり、大洪水が起きるでしょう。熱帯雨林が作り出す大気中の酸素にも影響があるかもしれません。

参考:

阿部治・野田研一監修『持続可能な未来がわかる絵本』(山と溪谷社、2007年)7頁

立教大学ESD研究センターCSRチーム ファクトカード_v1.0

すでに地球の陸地の1/4は砂漠です。

サハラ砂漠は毎年5キロずつ南に広がっています。地球全体では毎年九州と四国を合わせた面積が砂漠化しています。拡大要因の多くは人為的なものです。

参考:

阿部治・野田研一監修『持続可能な未来がわかる絵本』(山と溪谷社、2007年)7頁

立教大学ESD研究センターCSRチーム ファクトカード_v1.0

洪水の被災者数は20年間で
6.9倍に増えました。

ホッキョクグマの体には、
化学物質がたまっています。

洪水の被災者数は20年間で 6.9倍に増えました。

1990年以降、世界中で洪水の被害が増えています。1973年から77年は平均1900万人だったのが、1993年から97年は1億3100万人に増えました。世界中で起きた異常気象の影響と考えられます。

参考:

阿部治・野田研一監修『持続可能な未来がわかる絵本』(山と溪谷社、2007年)7頁

立教大学ESD研究センター-CSRチーム ファクトカード_v1.0

ホッキョクグマの体には、 化学物質がたまっています。

北極には、風や海流によって、世界中で出された有害な化学物質が集まってしまう。食物連鎖の頂点にいるホッキョクグマは「生体濃縮」が著しいのです。気候変動とあわせ、一時の乱獲から保護されて以降、また徐々に数を減らしています。

参考:

阿部治・野田研一監修『持続可能な未来がわかる絵本』(山と溪谷社、2007年)7頁
WWFジャパンウェブサイト

<http://www.wwf.or.jp/activities/wildlife/cat1014/cat1050/#2>

立教大学ESD研究センター-CSRチーム ファクトカード_v1.0

あなたの携帯電話とゴリラは
つながっています。

サハラ以南のアフリカでは、1000人のうち、
600人以上が病気です。

あなたの携帯電話とゴリラは つながっています。

あなたの携帯電話につかわれているレアメタルの一つ、「タンタル」はアフリカのコンゴ民主共和国(以下コンゴ)でも産出されています。携帯電話の爆発的な普及にあわせてタンタル需要も急増し、採掘のためにジャングルが荒らされました。内戦や密猟の影響も含め、コンゴのゴリラは激減し、絶滅の危機に瀕しています。

参考: ケータイゴリラウェブサイト
<http://keitai-gorilla.org/index.html>

立教大学ESD研究センターCSRチーム ファクトカード_v1.0

サハラ以南のアフリカでは、1000人のうち、 600人以上が病気です。

10人家族なら、おじいさんとおばあさん、おとうさんと子ども3人が病気です。おかあさんと子ども3人で10人分の水・食糧・燃料を確保しなければなりません。

参考:
阿部治・野田研一監修『持続可能な未来がわかる絵本』(山と溪谷社、2007年)7頁

立教大学ESD研究センターCSRチーム ファクトカード_v1.0

30秒に1人の子どもが、
マラリアで命を落としています。

感染者数はピークを越えましたが、
まだ500万人が治療を受けられていません。

30秒に1人の子どもが、 マラリアで命を落としています。

世界では毎年100万人以上が、マラリアで命を落としています。
アフリカでは、30秒に1人です。
これまで治療に用いられてきた薬は、耐性のための効かなくなりつつあります。
それに代わる新しい治療薬は、目処がたちつつありますが、まだ実際に効果をあげるまでには至っていません。

参考：地球市民村事務局編『私にできることは、なんだろう』（アスコム、2006年）35頁・国境なき医師団

国境なき医師団ウェブサイト 新しいツールや取り組みによる治療の進展
<http://www.msf.or.jp/news/2011/01/5079.php#6>

立教大学ESD研究センターCSRチーム ファクトカード_v1.0

感染者数はピークを越えましたが、 まだ500万人が治療を受けられていません。

2008年時点のエイズ感染者は全世界で3340万人。ピーク時よりも感染者数は減りましたが、発展途上国では最新の抗レトロウイルス薬による治療を受けられない人が500万人います。

参考：
国境なき医師団ウェブサイト
エイズ予防財団 HIV / エイズと生きるための7つのQ&A

立教大学ESD研究センターCSRチーム ファクトカード_v1.0

妊娠や出産が原因で、
1分に1人の女性が命を落としています。

5人に1人は小学校に行っていません。

妊娠や出産が原因で、1分に1人の女性が命を落としています。

そのうち99パーセントは途上国の女性です。貧困、栄養不足、交通が不便などの理由で、必要な検診や医療サービスを受けることができないのです。

参考:

地球市民村事務局編「私にできることは、なんだろう」(アスコム、2006年)81頁・ジョイセフ

立教大学ESD研究センター-CSRチーム ファクトカード_v1.0

5人に1人は小学校に行っていません。

アジアでは、小学校就学年齢の子どもの約20パーセントが未就学です。行きたくても行けない子どもがいます。行ったけれど辞めてしまう子どもがいます。校舎や先生の不足、教材の不備といった体制が理由の場合もあります。

そしてそのうち約60パーセントは女の子です。男の子なら学校へ、女の子は家のことを、そんな地域があります。

参考:

地球市民村事務局編「私にできることは、なんだろう」(アスコム、2006年)155頁・シャンティ国際ボランティア会
阿部治・野田研一監修「持続可能な未来がわかる絵本」(山と溪谷社、2007年)7頁

立教大学ESD研究センター-CSRチーム ファクトカード_v1.0

世界の子どもの7人に1人が
児童労働をしています。

世界で作られる穀物で、
世界の人々が食べていけます。

世界の子ども7人に1人が 児童労働をしています。

手縫いのサッカーボールやカカオ豆、コーヒーやバナナ、Tシャツの原料となるコットン、携帯電話の基盤に使われるレアメタルやダイヤモンド。わたしたちの周りには、児童労働に関係しているモノがたくさんあります。児童労働はわたしたちのくらしと無関係ではありません。

2004年と2008年の推計を比較すると、児童労働者の数は2億2200万人から約700万人減少しましたが、以前に比べると減少のペースが落ちています。

参考: NGO ACEウェブサイト

<http://acejapan.org/modules/tiny2/>

立教大学ESD研究センターCSRチーム ファクトカード_v1.0

世界で作られる穀物で、 世界の人が食べていけます。

2005年現在の人口、63億。世界で作られる穀物は19億トン。100億人を養う量です。

世界の5分の1にあたる先進国の人が、穀物の40パーセントを使っています。

中でも日本は世界最大の穀物輸入国。

世界で飢餓に苦しむ人は8億5200万人。食糧は足りないではありません。

参考:

地球市民村事務局編『私にできることは、なんだろう』（アスコム、2006年）227頁・日本国際飢餓対策機構

立教大学ESD研究センターCSRチーム ファクトカード_v1.0

5800万トン買って、1/3捨てています。

世界1位の死因は、飢えと栄養不足です。

5800万トン買って、1/3捨てています。

日本の食物のカロリー自給率は40パーセント。半分以上、海外から買っているのに、その1/3の1940万トンを捨てています。

参考:

地球市民村事務局編『私にできることは、なんだろう』(アスコム、2006年)229頁・日本国際飢餓対策機構

立教大学ESD研究センター-CSRチーム ファクトカード_v1.0

世界1位の死因は、飢えと栄養不足です。

飢えと貧困が原因で、毎日2万5000人が亡くなっています。

1950年と比べて、穀物・肉・牛乳の生産量は3倍になったのに、あいかわらず広い範囲で飢餓が起きている。世界には、すべての人が食べるのに十分な食糧があるのに、8億人以上の人が常におなかをすかせています。

食べ物はお金のあるところに過剰に集まり、お金のないところの状況は変わりません。

参考:

阿部治・野田研一監修『持続可能な未来がわかる絵本』(山と溪谷社、2007年)7頁

立教大学ESD研究センター-CSRチーム ファクトカード_v1.0

世界の貧困人口10億のうち、
8億はアジアに集中しています。

開発途上国の農村部で暮らす女性は、
毎日6～8時間、水くみや薪集めをしています。

世界の貧困人口10億のうち、 8億はアジアに集中しています。

1日当たり所得が1ドル以下という貧困人口は、世界で約10億人。その8割がアジア、とくにバングラデシュなど、南アジアに集中します。

そして、この10年間、この数字はかわらないままです。

参考:

地球市民村事務局編『私にできることは、なんだろう』(アスコム、2006年)133頁・オイスカ

阿部治・野田研一監修『持続可能な未来がわかる絵本』(山と溪谷社、2007年)7頁

立教大学ESD研究センター-CSRチーム ファクトカード_v1.0

開発途上国の農村部で暮らす女性は、 毎日6～8時間、水くみや薪集めをしています。

水場まで歩いて2時間。10キロの水を背負って帰りは3時間。翌日は一日中新集め。こんな日々を過ごしている女性は珍しくありません。

参考:

阿部治・野田研一監修『持続可能な未来がわかる絵本』(山と溪谷社、2007年)7頁

立教大学ESD研究センター-CSRチーム ファクトカード_v1.0

2025年、地球の人口は92億人です。

世界人口の50%は都市に住んでいます。

2025年、地球の人口は92億人です。

急激な人口増加はアフリカ、アジア、ラテンアメリカで起こっています。一方で、出生率が下がっている先進国の人口は減少します。2025年、日本の人口は1億2千万人を下回るとされています。

参考:

阿部治・野田研一監修『持続可能な未来がわかる絵本』(山と溪谷社、2007年)7頁

立教大学ESD研究センター-CSRチーム ファクトカード_v1.0

世界人口の50%は都市に住んでいます。

自然とともに暮らしていた人々が、その環境を失って都市部に移動します。仕事をみつけられず、貧しいままならスラム暮らしが待っています。

参考:

阿部治・野田研一監修『持続可能な未来がわかる絵本』(山と溪谷社、2007年)7頁

立教大学ESD研究センター-CSRチーム ファクトカード_v1.0

植物由来の薬の75%は、先住民族の経験と
知識が基礎になっています。

世界全体の富の3/4が
上位10ヶ国に集まっています。

植物由来の薬の75%は、先住民族の経験と知識が基礎になっています。

実験室で科学的に作られている薬ですが、そのもとにあるのは、どの植物がなんの病気に効くのかを知っていた先住民族の知恵なのです。

参考:

阿部治・野田研一監修『持続可能な未来がわかる絵本』(山と溪谷社、2007年)7頁

立教大学ESD研究センターCSRチーム ファクトカード_v1.0

世界全体の富の3/4が 上位10ヶ国に集まっています。

世界全体の国民総所得(GNI)の上位10ヶ国、アメリカ、日本、ドイツ、イギリス、フランス、中国、イタリア、カナダ、メキシコ、スペイン。残りのたった1/4を、180以上の国で分け合っているのです。

そして世界平均では、生活水準は悪化しています。グローバル化の進展により貧富の格差が増大します。働いても働いても誰かに吸い上げられて豊かになれない人々があります。

参考:

阿部治・野田研一監修『持続可能な未来がわかる絵本』(山と溪谷社、2007年)7頁

立教大学ESD研究センターCSRチーム ファクトカード_v1.0

水を飲んでおなかをこわし、脱水症状に陥って亡くなる子どもの数は1日4000人。

開発途上国が輸出用の農作物を育てているのは、借金の返済のためです。

**水を飲んでおなかをこわし、脱水症状に陥って
亡くなる子どもの数は1日4000人。**

蛇口をひねれば「飲める水」が出てくることは、当たり前のことではありません。透き通った水を見たことがない子ども、生きるために泥水を飲むしかない子どもがいます。

参考:

阿部治・野田研一監修『持続可能な未来がわかる絵本』(山と溪谷社、2007年)7頁

立教大学ESD研究センター-CSRチーム ファクトカード_v1.0

**開発途上国が輸出用の農作物を
育てているのは、借金の返済のためです。**

開発途上国では、珈琲、たばこ、綿花などをたくさん栽培しています。収穫された産物は先進国に輸出され、売上げは先進国からの借金の返済に充てられます。

参考:

阿部治・野田研一監修『持続可能な未来がわかる絵本』(山と溪谷社、2007年)7頁

立教大学ESD研究センター-CSRチーム ファクトカード_v1.0

日本を食べさせるために、
世界の水が使われています

裕福な国の子どもは、開発途上国の子どもの
30～50倍の資源を消費します。

日本を食べさせるために、 世界の水が使われています

日本に輸出する農産物を育てるために、世界各地で使われる水は、日本の国内総使用量の2.7倍です。一方で世界の1/5の人は安全な飲み水が手に入りません。

参考:

地球市民村事務局編『私にできることは、なんだろう』(アスコム、2006年)228頁・日本国際飢餓対策機構

立教大学ESD研究センター-CSRチーム ファクトカード_v1.0

裕福な国の子どもは、開発途上国の子どもの 30～50倍の資源を消費します。

子ども部屋にあふれる電子ゲーム機、ゲームソフト、おもちゃたち。毎日のおやつや快適な部屋。先進国のありふれた風景です。反面、おもちゃをみたことがない子どももいるのです。

参考:

阿部治・野田研一監修『持続可能な未来がわかる絵本』(山と溪谷社、2007年)7頁

立教大学ESD研究センター-CSRチーム ファクトカード_v1.0

環境の悪化は貧困・飢餓をもたらし、
社会不安や紛争を起こします。

化学肥料と農薬の乱用は、
水質汚濁や食物連鎖による化学物質の拡散
を引き起こします。

**環境の悪化は貧困・飢餓をもたらし、
社会不安や紛争を起こします。**

農地が砂漠化した環境難民や異常気象で引き起こされる飢饉。生きる環境が崩れると、明日を生きるために秩序やルールは二の次になります。

参考:

阿部治・野田研一監修『持続可能な未来がわかる絵本』(山と溪谷社、2007年)7頁

立教大学ESD研究センターCSRチーム ファクトカード_v1.0

化学肥料と農薬の乱用は、水質汚濁や食物連鎖による化学物質の拡散を引き起こします。

より収穫量が多くなるよう品種改良した作物は、害虫に弱く、農薬が必要です。化学肥料も収量アップのために必要です。農薬に含まれる化学物質は食物連鎖を通じて大きな生きものへに影響を与え、余分な養分は水を通じて、水質に影響を与えます。

参考:

阿部治・野田研一監修『持続可能な未来がわかる絵本』(山と溪谷社、2007年)7頁

立教大学ESD研究センターCSRチーム ファクトカード_v1.0

灌漑は塩害を引き起こします。

毎年の世界の軍事費総額の1/3で、
持続可能な開発が実現できます。

灌漑は塩害を引き起こします。

大量の地下水をくみ上げた大規模農業は、一時期たくさんの収穫を上げ、成功したかのようでした。しかし、大量の塩が地表を覆うようになり、農業はできなくなりました。

かつて世界4位の大きさを誇ったアラル海は、旧ソ連の無謀な灌漑によって、面積が1/25以下になり、塩分濃度が5倍になりました。

参考:

阿部治・野田研一監修『持続可能な未来がわかる絵本』(山と溪谷社、2007年)7頁
<http://ja.wikipedia.org/wiki/アラル海>

立教大学ESD研究センターCSRチーム ファクトカード_v1.0

毎年の世界の軍事費総額の1/3で、 持続可能な開発が実現できます。

飢餓と栄養失調をなくす 健康管理してAIDSを抑制する
住まいを提供する きれいで安全な水を提供する
読み書きのできない人をなくす クリーンで安全なエネルギーを提供する
開発途上国の借金をなくす 人口の安定化
土壌浸食の防止 森林伐採の阻止 オゾン層破壊の防止 酸性雨の防止
地球温暖化の防止 地雷の撤去 難民救済 核兵器の廃絶
民主主義の樹立

参考:

阿部治・野田研一監修『持続可能な未来がわかる絵本』(山と溪谷社、2007年)7頁

立教大学ESD研究センターCSRチーム ファクトカード_v1.0